

令和4・5年度 長崎県教育委員会・長崎市教育委員会指定
「学校や地域が抱える課題や実態等に応じた研究」

研究紀要



学校・生徒の実態

- ①少子化により、生徒数・部活動参加者数が減少している
- ②小集団で、活気に乏しい
- ③地域行事への参加率が低い
- ④生徒は落ち着いていて仲が良いが、積極性に課題がある



研究仮説

1人1人の生徒が、地域や長崎外国語大学と「ひと・もの・こと」において様々な交流を行い、関わり合う中で、視野を広げたり、新たな自分の個性を発見したりする活動を設定すれば、「自己効力感」が高まり、自分の未来や地域の未来を具体的に考え・想像し、その実現のために自ら学習・生活・行事等に意欲的に取り組むようになるであろう。

研究主題

自分と地域の未来のために、自ら行動できる生徒の育成
～「自己効力感」を高める地域・長崎外国語大学との交流～

具体的な取組

「4つのアプローチ」と「4つのねらい」

- ①「自己効力感」を高める4つのアプローチの実践
- ②4つのねらいに迫る地域・長崎外国語大学との交流

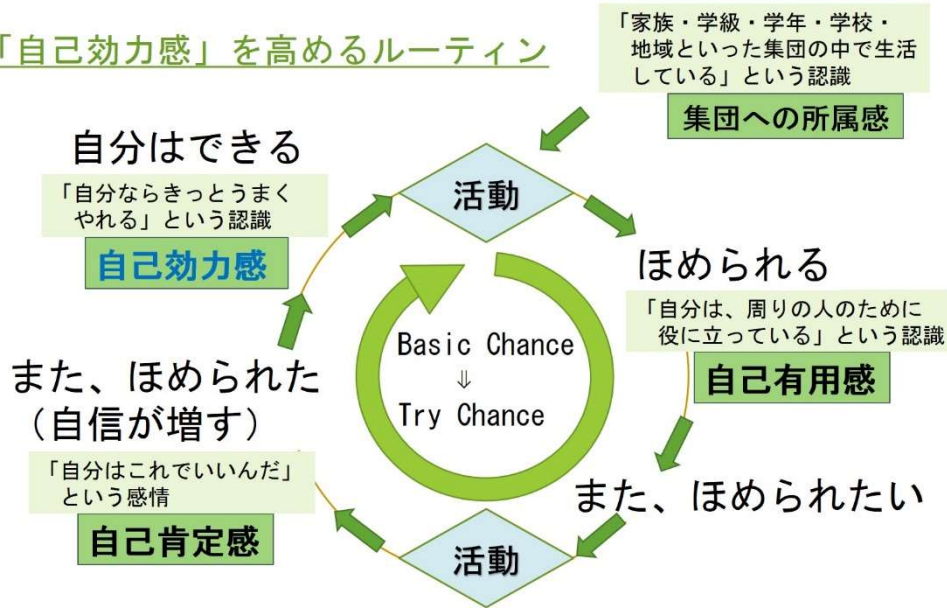
「自己効力感」とは？

自分が目標を達成するための能力を持っていると認識すること。

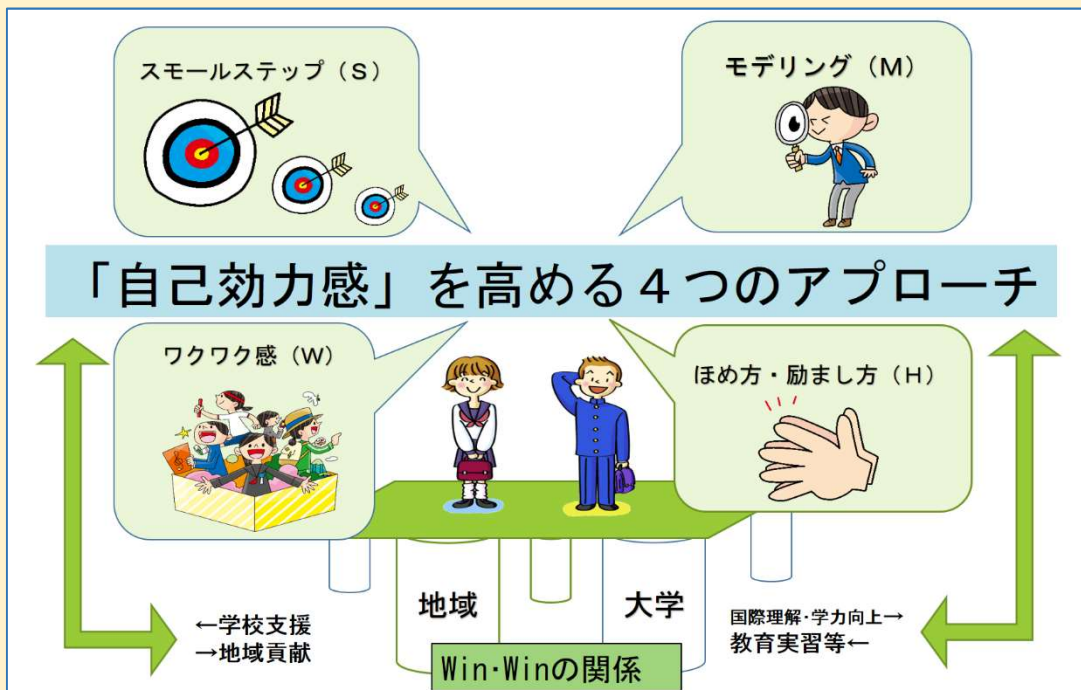
〔スタンフォード大学教授で心理学者のアルバート・バンデューラ博士によって提唱された概念。「Self-efficacy」(セルフ・エフィカシー)〕

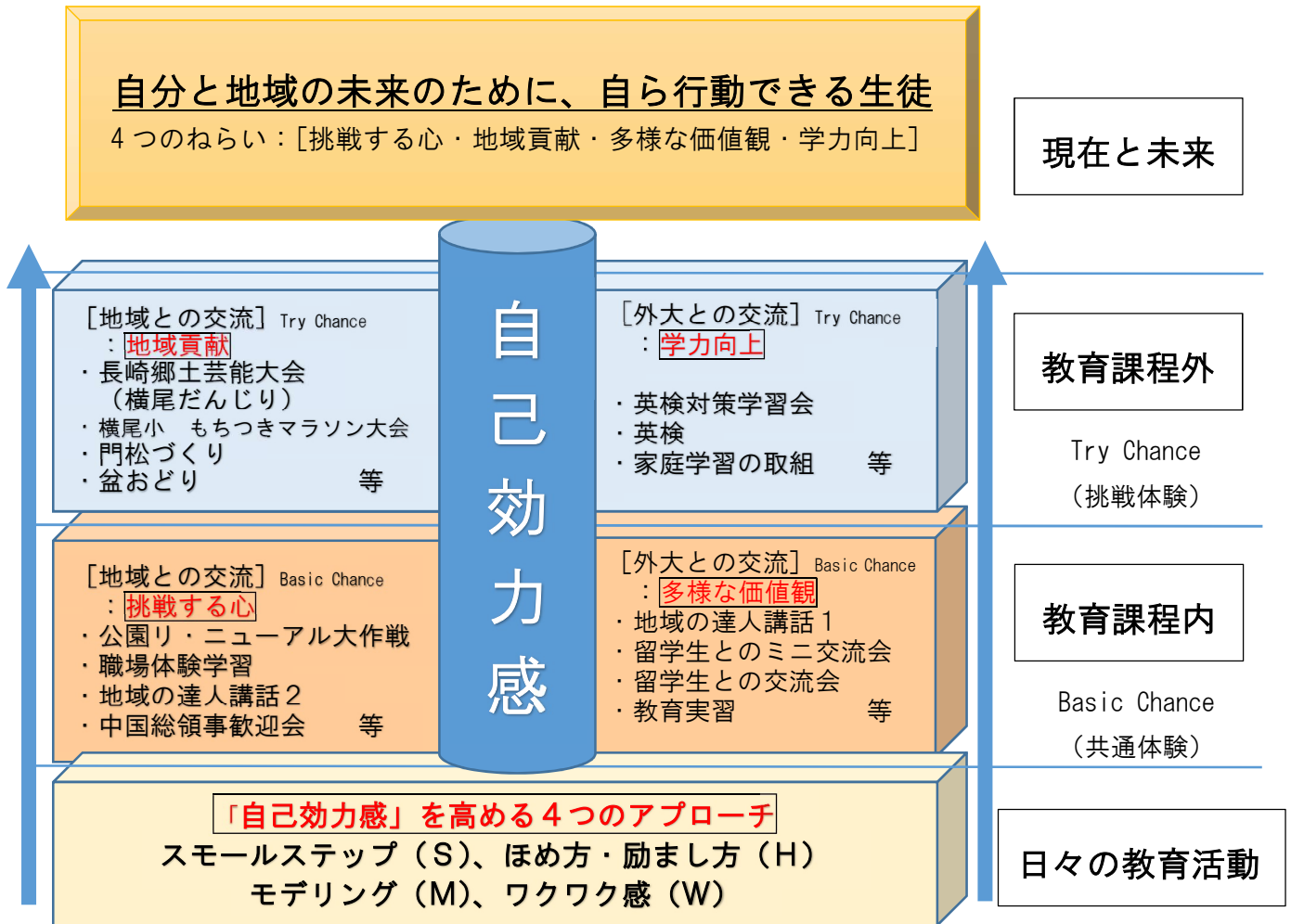
「自己効力感」を高めるには？

「自己効力感」を高めるルーティン



「自己効力感」を高める4つのアプローチとは？





研究構想図

【研究主題】

自分と地域の未来のために、自ら行動できる生徒の育成
 ～「自己効力感」を高める地域・長崎外国語大学との交流～

2つの柱	ねらい	具体的な取組	求める生徒の姿と評価方法
 地域との交流	 地域貢献	【Try Chance】 ○長崎郷土芸能大会(横尾だんじり) ○横尾小 もちつきマラソン大会 ○門松づくり ○盆おどり 等	地域貢献できる生徒 ○C(1)社会参画、公共の精神 ☆1：全国学力・学習状況調査 「地域や社会のために考える」 ☆2：行事後の生徒の感想 等
	 挑戦する心	【Basic Chance】 ○公園リ・ニューアル大作戦（1年） ○職場体験学習（2年） ○地域の達人講話2 [三浦会長] ○中国総領事歓迎会 等	失敗を恐れず挑戦する生徒 ○A(4)強い意志 ☆3：自己効力感アンケート 「難しいことでも挑戦したい」 ☆4：行事後の生徒の感想 等
 外大との交流	 学力向上	【Try Chance】 ○英検対策学習会 ○英検（学生の試験監督） ○家庭学習の取組 等	計画を立て家庭学習をする生徒 ○A(3)向上心、個性の伸長 ☆5：全国学力・学習状況調査 「家で計画を立てて勉強」 ☆6：英検の受検者数・結果 等
	 多様な価値観	【Basic Chance】 ○地域の達人講話1 [小島居教授] ○留学生とのミニ交流会（2年） ○留学生との交流会（3年） ○教育実習 等	価値観の違う人と仲良くなる生徒 ○C(1)国際理解、国際貢献 ☆7：全国学力・学習状況調査 「自分と違う意見について考える」 ☆8：行事後の生徒の感想 等

スモールステップ (S)：3段階の目標を設定しての行事等へ挑戦

○チャレンジシート

体育大会 私の「挑戦」 (3)年(1)組()

・「自分の役割、立場、出場種目」などから考えよう。
 ・「具体的な行動」を書こう。
 ×背団に勝つ。 ×全員リレーをがんばる。 ×準備や片付けをがんばる。
 ○長縄でみんなに励ましの声をかける ○全員リレーで、最後まで全力で走る。 ○片付けでは、1人の2倍動く。 ○笑顔で楽しむ!

★私は次の3つに挑戦します!

A(難易度高) ソーラン節を力強く踊る (◎)

B(難易度中) 全員リレーで全力で走る (◎)

C(難易度低) 全力で楽しむ (◎)

【大会後の振り返り】 ※上の「ABCの挑戦」それぞれの達成度を()に◎○△で書き、目標に対して振り返りを書こう。

勝った事、とても大きな物を得たという事がわかりました。最後の体育大会で、この×××××でももうないのだから全力で楽しみました。悔いはないです。また、足が遅い私にも、リレーとは本当に苦手なので、Bの目標である全員リレーを頑張るでは遅かった、遅かったけど、とても楽しみながら全力で走り始め、事が出来ました。

○3段階の目標設定
 A (達成度高)
 B (達成度中)
 C (達成度低)

○具体的な行動目標
 「全員リレーで
 全力で走る」

○評価は
 [◎か○か△]
 と感想文

体育大会後の感想

「遅かったは遅かったけれど、とても楽しみながら全力で走り抜くことができました」

ほめ方・励まし方 (H)：教員による生徒への声掛け等の工夫

自己効力感を高める具体的な声かけ、関わり方の例

【うまくできた時】

- ×頭いいね。天才だね。 やっぱりデキルね。 賢いね。
- ※「能力・才能」を褒めると「もともと能力・才能がない人は努力しても変わらない」と捉える生徒も。
 「人の能力は、『努力』で変えられる」と捉えさせるのが◎
- 毎日勉強したからね！ あきらめずに頑張っていたね！ 立ち止まらずに、いろいろ試したところがエライ！（結果でなく、その過程を褒める）

【早くできた、ちょっと教えただけですぐできた】

- ×すごいね、早いね。 才能あるね。 すぐにできたね！
- 集中していたね。 今まで何度も練習したからだね。
 （能力ではなく、何らかの努力、行動の結果であることを伝える。）
 君には簡単だったかな？ じゃあ次はこれにチャレンジしてみよう！

【成功した時】

- ×次はこれも出来るかな？ この成功を続けられるかどうかだね。
- すごいね、どうやったらうまくいったの？ ずっと練習していたね。
 今回はなぜうまくいったと思う？（成功の要因となった具体的な理由や行動を引き出し、そこを褒める）

【失敗した時】

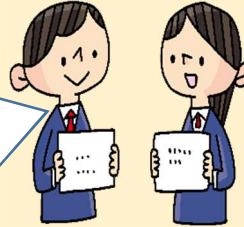
- ×だから言ったでしょう？ 次は大丈夫よ！（安易な励まし）
- 辛かったね…、今どんな気持ち？
 （辛い思いに共感する。相手は、共感され、思いを受け止めてもらったことで次に向けて歩き出せる）

モデリング (M)：模範となる生徒や著名人の生き方・考え方の提示

○チャレンジシートから

体育大会後の1年生の感想

「練習のとき、〇〇先輩と△△先輩が優しく、厳しく教えてくれたので、うまく踊れた。私は3年生になったら先輩たちのように優しく教えてあげたいと思いました。」



合唱コンクール後の2年生の感想

「来年は今年の3年生のように全部のパートの歌声が重なってきれいなハーモニーになったらいいなあと思いました。来年もがんばろうと思いました。」

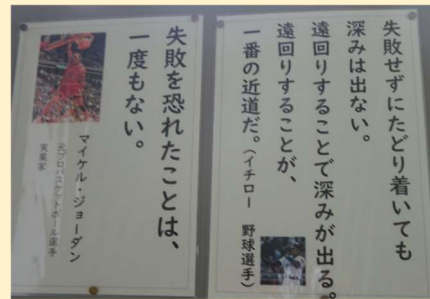
○校内の掲示物

生徒玄関



【先人の声】

階段踊り場



【著名人の名言】

ワクワク感 (W)：生徒の興味・関心を高めるイベント等の工夫

○「身近な中国を探す旅」

市内1日研修



中国総領事館訪問



「普通は入れないところで、中国のことについて知れたし、中国総領事館の内装のことについても少しだけ知ることができたので良かったです。」

張大興総領事様より

「視野を広く持ってほしい、長崎と中国は昔からの交流がある。海外に興味をもってほしい。」

○留学生との交流会

留学生交流会でたくさんの思い出をつくることができました。最初に披露したソーラン節では、留学生の方々が手拍子や声援などで盛り上げて楽しんでくれたので本当にうれしかったです。



It was a happy time to meet you today.
I was appreciated that you prepared a lot of things to us. Especially the dance, that was nice!
I was so impressed so, I took a video.
I will show to my family.
Thank you for today ♡
I will not forget forever.
If we meet somewhere I want to say hello to you guys!! Thank you !! so ♡

[参加した留学生からの手紙]

6 研究の成果と課題

5月と比較して、0.3P以上の下降 、上昇 、0.3P以上の上昇

「自己効力感」アンケート:私のチャレンジ度	5月				10月			
	3年平均	2年平均	1年平均	全体	3年平均	2年平均	1年平均	全体
①私は、何かを決める時は迷わず決めることが多い。	2.89	3.07	2.50	2.82	2.54	2.73	2.81	2.70
②何か新しいことを始める時は、不安よりも期待の方が大きい	2.76	2.70	3.10	2.85	2.80	3.07	3.53	3.13
③何かを始める時、「失敗するかも…」と不安になるより、ワクワクする気持ちのほうが強い	2.48	2.87	2.90	2.75	2.78	2.77	3.22	2.92
④難しそうなことでも、面白そうと思ったらチャレンジするほうだ	3.22	3.40	3.70	3.44	3.48	3.63	3.69	3.60
⑤途中でうまくいかなくてもあきらめず、できるまでやり続けようとするほうだ	3.13	3.37	3.70	3.40	3.08	3.33	3.53	3.31
⑥自分から話しかけたりして、新しい友達を作るのが得意なほうだ	2.70	3.20	3.50	3.13	2.90	2.97	3.09	2.99
⑦私は失敗を恐れず、何でも積極的にチャレンジするほうだ	2.54	2.83	3.20	2.86	2.86	2.80	3.16	2.94
⑧失敗してもクヨクヨと落ち込まず、「次はがんばろう!」と思うほうだ。	2.91	3.27	3.50	3.22	3.46	3.10	3.09	3.22
⑨何かをやり終えた後、「やってよかった」と思うことが多い	3.61	3.27	3.90	3.59	3.92	3.73	3.88	3.84
⑩自分には、何か人よりも優れた力があると思う。	2.78	2.93	3.30	3.00	3.18	2.97	3.59	3.25
⑪人よりも、特に優れた知識を持っている分野がある。	2.69	2.93	3.40	3.01	3.06	3.00	3.50	3.19
⑫自分には、世の中や集団に貢献できる力があると思う。	2.69	3.17	3.10	2.99	2.98	3.27	3.00	3.08
⑬人の能力は「生まれつき」ではなく、努力次第でいくらでも伸ばせると思う	3.89	3.53	4.00	3.81	3.86	3.93	4.06	3.95
⑭自分の将来に役立つことなら、難しい事でも挑戦したい	3.61	3.70	3.90	3.74	3.66	3.43	4.03	3.71
⑮自分が世の中や集団に貢献できることがあれば、積極的にやってみたい	3.28	3.27	3.80	3.45	3.44	3.37	3.41	3.40
合計の平均	3.01	3.17	3.43	3.20	3.20	3.21	3.44	3.28

4段階選択技法により換算(4+3+2+1)÷4=2.5(平均) 4:そう思う、3:ややそう思う、2:あまり思わない、1:思わない

◎集計結果

- ・全項目の平均が 3.20→3.28 と上昇した。学年ごとに見ても上昇した。
- ・15項目中9項目で上昇した。特に3年では、12項目上昇した。
- ・全項目の中で肯定的に回答した生徒の割合が最も高かったのは「⑬能力は努力次第」であった。
- ・2, 3年では「迷わずに決める」が下降していた。

◎「自己効力感」を高める4つのアプローチ

- (S): 明確な目的意識をもって主体的に行事に取り組んだ。自己評価も高く、次の行事へとつながった。
- (H): ほめ方・励まし方を工夫することによって心の安定が図られ、教員との人間関係も良好になった。
- (M): 3年生の姿をみて、「先輩のようになりたい」と下級生が思うようになり、3年生も自覚が出てきた。
- (W): 不登校傾向の生徒も行事の時には参加している。

◎4つのねらい

- [挑戦する心]: 「自己効力感」アンケートの「⑭難しいことにも挑戦したい」は1, 3年では高くなった。
- [地域貢献]: 地域ボランティア活動に、目的を理解して一般の生徒も参加するようになった。
- [多様な価値観]: 全国学力・学習状況調査の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」では県の値よりも5.2P高かった。
- [学力向上]: 全国学力・学習状況調査では、各教科の平均正答率を県の値と比べると英語が最も高かった。

◎研究の成果と課題

「自己効力感」を高める 4つのアプローチは効果があることが明らかになった。4つのねらいを設定し、地域と外大との交流で「自分と地域の未来のために、自ら行動できる生徒」が増えつつある。今年度、コミュニティ・スクールに移行し、地域・保護者と熟議を重ね、行事の精選を図っていききたい。